

1. 研究課題名

企業の環境対応の促進要因と効果に関する研究

2. 研究代表者及び所属：

記虎 優子（同志社女子大学現代社会学部）



3. 研究実施期間

平成 19 年度～20 年度

4. 研究の趣旨・概要

企業が社会責任（CSR）活動の一環として地球環境問題に積極的に取り組んでいくべきことは、最近では国内外で広く認識されるようになってきている。しかし、わが国では、企業の環境的側面についてのディスクロージャー（情報開示）は未だいわゆる環境配慮促進法によって企業の努力義務とされているに過ぎず、かかるディスクロージャーの進展は企業の自発的な取り組みにもっぱら依存している状況にある。わが国において、今後地球環境問題を解決するためには、環境ディスクロージャーをはじめとする企業の様々な環境対応を促進することを目的とする政策をより一層進め、また場合によってはこうした環境対応を企業に義務付けることが必要である。

本研究は、学術的基礎を会計学研究に置いて、現状において企業の環境対応を促進している要因は何か、そして企業が環境対応に取り組むことで得られる効果は何かを実証的に解明することを目指すものである。

企業の環境対応の促進要因を明らかにすることにより、企業の環境対応を促進するためにどのような施策を講じればよいのかについて科学的論拠を提示することができる」と期待される。また、企業の環境対応の効果を明らかにすることにより、こうした施策の有効性について科学的論拠を提示することができると期待される。

5. 研究項目及び実施体制

企業の環境対応（環境ディスクロージャーおよび環境会計を含む）の促進要因と効果に関する研究 特に非財務的尺度に着目して（同志社女子大学）

企業の環境対応（環境ディスクロージャーおよび環境会計を含む）と証券市場の関係に関する研究（大阪学院大学）

6. 研究のイメージ

